令和８年度 京都市
地域リハビリテーション推進研修

25の講座
7の実習

発行：令和８年５月／
保健福祉局地域リハビリテーション推進センター相談課
京都市印刷物 第 080925 号

京都市 CITY OF KYOTO

（センターホームページ）

講座プログラム（会場＋オンライン）

ハイブリッドでの研修です！

	日 程	時 間	テーマ 講師
1	7月6日(月)	9:30 ~11:30	正しく知ろう、発達障害の基礎知識 ♥ 京都市発達障害者支援センター かがやき センター長 京都市児童福祉センター 児童精神科医師 村松 陽子
※2	7月7日(火)	13:30 ~15:30	【実践】事例と根拠で学ぶ！効果的な介護予防運動の進め方 ● 京都橘大学 健康科学部 理学療法学科 准教授 理学療法士 安彦 鉄平 氏
※3	7月29日(水)	13:30 ~15:00	在宅生活を支える栄養管理 ～多職種で連携して支援する生活～ ● NPO法人 京都訪問栄養士ネット 医療法人社団都会 渡辺西賀茂診療所 管理栄養士 松木 さなえ 氏
4	8月12日(水)	13:30 ~15:00	統合失調症の理解と支援 ～事例から学ぶ、地域生活を支える支援～ ★ 四条烏丸駅前メンタルクリニック 院長 精神保健指定医 並河 東明 氏
※5	8月18日(火)	13:30 ~15:30	風通しのよい職場を作るために ～自分を守り、仲間とつながる処方箋～ 滋賀大学 インクルーシブ学生支援室 特命准教授 臨床心理士 公認心理師 藤本 麻起子 氏
※6	8月26日(水)	13:30 ~15:00	認知症サポート医から学ぶ、地域での認知症の方や家族の支援の実際 ● 塚本医院 院長 塚本 忠司 氏
7	8月28日(金)	13:30 ~16:30	精神障害のある方とその家族への支援 ～メリデン版訪問家族支援から学ぶ、 精神に「障害」のある方とご家族のまるごと支援～ ★ Cafsきょうと（Carer and family support きょうと） 代表 ノートルダム女子大学 客員教授 精神保健福祉士 社会福祉士 臨床心理士 佐藤 純 氏
8	9月2日(水)	15:15 ~17:00	嗜癖（しへき）と依存症の理解と支援～事例から学ぶ、地域生活を支える支援～★ 安東医院 院長 精神科医 安東 毅 氏 京都府断酒平安会 会員
9	9月10日(木)	9:30 ~11:30	高次脳機能障害のある子どもの支援 ～症状や年齢に即した支援のあり方～ ◆ 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻 先端作業療法学講座 助教 作業療法士 草野 佑介 氏
※10	9月15日(火)	9:30 ~11:00	【介護事業所の諸課題に立ち向かう】人口減少社会を生き抜くための組織づくり ～「南大阪モデル」に学ぶ、地域で共に創る仕掛け～ 一般社団法人 南大阪介護事業所連盟 副理事長 西之坊 篤 氏
11	9月17日(木)	9:30 ~11:30	アタッチメントに着目した自閉スペクトラム症児と養育者に対する親子関係支援 ♥ 関西福祉科学大学 心理科学部 心理科学科 教授 久保 信代 氏
12	10月8日(木)	15:20 ~16:50	精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～ ★ 公益財団法人 豊郷病院 精神科医 波床 将材 氏
13	10月9日(金)	13:30 ~15:30	学校の中に「作業療法」の視点を ♥ ～学校作業療法室の活用と、子どもが輝く環境づくり～ 名古屋市立大学 医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻 講師 作業療法士 塩津 裕康 氏
14	10月14日(水)	13:30 ~15:30	千葉リハの取組から学ぶ、高次脳機能障害のある方への就労支援の実際 ◆ 千葉県千葉リハビリテーションセンター 福祉局長 地域支援センター長 高次脳機能障害支援部長 就労支援部長 森戸 崇行 氏
15	10月20日(火)	9:30 ~11:30	発達に特性を抱える子の卒業後の就労に向けての支援とは ♥ 精神保健福祉士 社会福祉士 神戸市発達障害ピアカウンセラー 笹森 理絵 氏
※16	10月21日(水)	13:30 ~15:00	医療的ケア児の理解と支援の実際 ～明日から使える実践報告～ 京都市東部医療的ケア児等地域支援コーディネート事業「つながる」 コーディネーター 鯉江 宏樹 氏

	日 程	時 間	テーマ 講師
17	10月22日(木)	13:30 ~15:00	気分(感情)障害の理解と支援 ★ ~こころの健康問題を正しく理解するために~ 京都市こころの健康増進センター 相談援助課 担当係長 精神科医 齋藤 暢紀
18	11月13日(金)	13:30 ~15:30	学習障害(LD)のある子の支援について ♥ ~ICT活用と合理的配慮がつなぐ子どもの未来~ 一般社団法人 読み書き配慮 代表理事 菊田 史子 氏
※ 19	11月18日(水)	13:30 ~15:30	誰もが取り残されない地域づくり ~つまずきを繰り返さないために~ 京都府地域生活定着支援センター センター長 小林 稔 氏
20	11月20日(金)	13:30 ~15:30	障害福祉サービスと介護保険サービス ~両制度の移行や併用、多職種連携~ ● 京都市東部障害者地域生活支援センター らくとう 副所長 中村 嘉男 氏 オフィス Re・Cre ケアマネジャー 後藤 亮太 氏
21	12月7日(月)	13:30 ~15:30	世界がどう見えているのか？ ♥ 「心の理論」で知る自閉スペクトラム症の子どもの心 中部学院大学 教育学部 子ども教育学科 教授 別府 哲 氏

※ 会場は、「 COCO･てらす 4階 研修室1 」で、定員は90名(会場40名、オンライン50名)です。
※ 2、3、5、6、10、16, 19の講座は、定員は50名(会場20名、オンライン30名)です。

★印は「京都市こころの健康増進センター」との共催
●印は「京都市保健福祉局健康長寿のまち･京都推進室」との共催
◆印は「京都市高次脳機能障害者支援センター」との共催
♥印は「京都市発達障害支援センターかがやき」との共催

講座プログラム（会場のみ）

会場のみの実施です！
（オンラインでは実施しません。）

	日 程	時 間	テーマ 講師
22	7月23日(木)	13:30 ~16:30	その抱え上げ、本当に必要ですか？ ~持ち上げない＋対象者の皮膚と身体を守る介助(ノーリフティングケア)の視点と実践~ 社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 人事部 人材研修センター 担当部長 理学療法士 神内 昭次 氏
23	9月14日(月)	14:00 ~16:00	【実践】プロに学ぶ排泄ケア ● ~おむつの基本知識と「暮らしの質」を高める装着技術~ おむつ宅配便 代表 おむつ情報局 管理者 理学療法士 八木 大志 氏
24	10月26日(月)	10:00 ~12:00	暮らしを支える摂食･嚥下支援の実際 ~「食べる」喜びを繋ぐ評価と実技~ ● はなす たべる くらす舎 代表 言語聴覚士 食支援研究家 高田 耕平 氏
25	11月11日(水)	13:30 ~15:30	医療的ケアの関係機関との連携や実際の支援 ~支援者同士のネットワーク構築~ 京都医療センター 地域連携室 医療ソーシャルワーカー 仲江 陽大 氏

※ 会場は、「COCO･てらす 4階 研修室1」で、定員は25名です。

実習プログラム

ご希望の場所まで
出講もします！
（定員6名）

講師は、当センターの理学療法士、作業療法士です。

	日 程	時 間	テーマ
1	7月16日(木)	10:00～11:30	現場に活かす！ 機能維持体操「座位でできる集団体操編」
※2	7月21日(火)	9:30～12:00	現場に活かす！「介助用リフトの正しい使い方」
3	7月28日(火)	9:30～11:30	現場で役立つ！ 介助法「ベッド上移動・起き上がり編」
4	令和9年 1月20日(水)	10:00～11:30	現場に活かす！ 機能維持体操「座位でできる集団体操編」
※5	令和9年 1月22日(金)	9:30～12:00	現場に活かす！「介助用リフトの正しい使い方」
6	令和9年 1月27日(水)	9:30～11:30	現場で役立つ！ 介助法「ベッド上移動・起き上がり編」
7	令和9年 1月29日(金)	9:30～11:30	現場で役立つ！ 介助法「移乗編」

※ 会場は、「 COCO・てらす 4階 研修室1 」で、定員は6名です。
※ 2、5の実習の会場は「COCO・てらす 4階 ADL室」です。
※ 実習には、当センターで実施する上記の「会場型」のほかに、ご準備いただいた会場に出向く「出講型」があります。
※ 「出講型」の内容は、「会場型」と同じです。「実習の詳細」をご覧ください。
※ 「出講型」の定員等は申込時にご相談ください。

講座の詳細(会場とオンライン)

1. 正しく知ろう、発達障害の基礎知識

7月6日(月) 9:30～11:30

講師：村松　陽子
京都市発達障害者支援センター かがやき　センター長
京都市児童福祉センター　児童精神科医師

本講座では、発達障害についての基本的な知識を整理し、正しく理解を深めます。発達障害のある方は、どのような場面で困難さを感じ、どのような場面で力を発揮することができるのでしょうか。発達障害のある方たちの行動面や心理面の問題に対してどのような対応をすれば過ごしやすくなるのか、特性に合わせた関わり方の工夫や日常生活の中での具体的な支援について事例を通してお話いたします。

※　９月１７日、１０月９日、１０月２０日、１１月１３日、１２月７日の講座は、受講者の方々が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講をお考えの方は、本講座を先に受講されることをお勧めします。

2. 【実践】事例と根拠で学ぶ！効果的な介護予防運動の進め方

7月7日(火) 13:30～15:30

講師：安彦　鉄平 氏
京都橘大学 健康科学部 理学療法学科 准教授
理学療法士

効果的かつ地域で親しまれる介護予防運動を推進するためには、どのような根拠を用いてプログラムを構成すればよいのでしょうか？

本講座では、講師がこれまで自治体等の介護予防体操を構築・プロデュースしてきた経験に基づき、作成のプロセスと作成した介護予防体操の根拠について詳しく解説します。参加者全員が楽しく、かつ効果的に取り組めるプログラムをいかに構築してきたか、その実践知を共有します。

単に体を動かすだけの「なんとなく」の体操から、「なぜこの動きを構成に入れているのか」という明確な意図を持った体操へ。実技を交えながら、明日からの福祉・介護現場ですぐに活用できる実践的な手法について、専門的な知見からお話しいただきます。

3. 在宅生活を支える栄養管理 ～多職種で連携して支援する生活～

7月29日(水) 13:30～15:00

講師：松木　さなえ　氏
NPO法人 京都訪問栄養士ネット
医療法人社団都会 渡辺西賀茂診療所　管理栄養士

栄養、食生活は、生命や身体機能の維持のための土台であるため、必要なエネルギーやたんぱく質等の栄養が不足すると、フレイル状態に陥ったり、運動の効果が上がらないなど、生活や健康面に大きく影響を及ぼします。

本講座では、ケアマネジャーやホームヘルパーをはじめとする支援者の皆様に気をつけてほしい栄養管理の基本、栄養アセスメントや支援の実際、栄養の視点から必要となる多職種の連携等について事例を通してお話しいただきます。

講座の詳細（会場とオンライン）

4. 統合失調症の理解と支援 ～事例から学ぶ、地域生活を支える支援～

8月12日（水）13:30～15:00

講師：並河　東明　氏
四条烏丸駅前メンタルクリニック　院長
精神保健指定医

支援現場で出会う機会が多い統合失調症ですが、日々の具体的な関わり方や最新の治療動向に悩む支援者は少なくありません。 本人の地域生活を支えるために、支援者としてどのような視点を持ち、寄り添えばよいのでしょうか。

本講座では、統合失調症の基礎知識から具体的な支援のあり方までを豊富な事例を通して学び、支援者としての関わり方のコツや地域生活を支えるための視点について最新の知見を交えながら、分かりやすくお話しいただきます。

5. 風通しのよい職場を作るために ～自分を守り、仲間とつながる処方箋～

8月18日（火）13:30～15:30

講師：藤本　麻起子　氏
滋賀大学 インクルーシブ学生支援室 特命准教授
臨床心理士、公認心理師

日々、利用者様やご家族に寄り添い、懸命に支援を続けている皆さま。「最近、自分のことは後回しになっている」「職場での悩みや不安を一人で抱え込んでいる」と感じることはありませんか。対人援助のプロとして良質な支援を続けるためには、まず「自分自身の心を守ること」、そして「仲間に安心して相談できる環境」が不可欠です。

本講座では、心理学の専門家を講師にお招きし、ストレス社会を生き抜くためのセルフケアの技術と、チームの心理的安全性を高めるコミュニケーションについて、事例を交えて楽しく学びます。

6. 認知症サポート医から学ぶ、地域での認知症の方や家族の支援の実際

8月26日（水）13:30～15:00

講師：塚本　忠司　氏
塚本医院　院長

2050年には、認知症と軽度認知障害（MCI）の患者数は、全国で約1200万人（65歳以上の高齢者の約28％）になると予測されています。

ご本人やご家族、周囲の人が、認知症を正しく理解し、症状に合わせた適切な治療や支援を受けることで住み慣れた地域で自分らしく長く暮らし続けることが可能です。

本講座では、認知症当事者や家族に寄り添うかかりつけ医として地域医療に従事する講師から、認知症の中核症状や周辺症状、治療等の基礎を学ぶとともに、事例を通して、多職種連携を含めた地域での支援の実際についてお話しいただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

7. 精神障害者のある方とその家族への支援 ～メリデン版訪問家族支援から学ぶ、精神に「障害」のある方とご家族のまるごと支援～

8月28日(金) 13:30～16:30

講師：佐藤　純　氏
Cafsきょうと（Carer and family support きょうと）代表
京都ノートルダム女子大学 客員教授
精神保健福祉士、社会福祉士、臨床心理士

イギリスでは「ケアラー法」という法律のもと、精神疾患を発病したご本人とご家族（親、配偶者、きょうだい、子どもなど）をまるごと支援する、メリデン版訪問家族支援が提供されています。
本講座では、そのメリデン版訪問家族支援から、精神障害のある人とケアする家族をまるごと支援する際の支援者のまなざしと姿勢、そして具体的な関わり方について事例を交えてお話しいただきます。

8. 嗜癖(しへき)と依存症の理解と支援 ～事例から学ぶ、地域生活を支える支援～

9月2日(水) 15:15～17:00

講師：安東　毅　氏
安東医院　院長　精神科医
体験談：京都府断酒平安会 会員

アルコールや薬物、ギャンブルなど依存症の対象は幅広く、支援現場では本人の否認や再発といった対応の難しさに直面する場面が少なくありません。刻々と変化する最新の治療動向や経過を正しく踏まえた上で、日々の生活場面において、私たちはどのように本人に寄り添い、具体的な関わり方を見出すのでしょうか。
本講座では、依存症の基本的な症状から最新の知見までを具体的な事例を通して学び、 幅広い依存症への対応に悩む支援現場ですぐに役立つ関わり方のポイントについて、 精神科医師としての豊富な臨床経験に基づいた多角的な視点から、お話しいただきます。
また、当事者である京都府断酒平安会の方から体験談をお話しいただきます。

9. 高次脳機能障害のある子どもの支援 ～症状や年齢に即した支援のあり方～

9月10日(木) 9:30～11:30

講師：草野　佑介　氏
京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻
先端作業療法学講座 助教　作業療法士

小児の高次脳機能障害は、成人の高次脳機能障害の方と違い、復学後に学校や家庭生活での困りごとに直面しやすく、発達段階やその年齢に沿った関わりや支援が必要と言われています。
本講座では、もやもや病や脳腫瘍などによる幼小期の高次脳機能障害について、さまざまな年齢の子どもの支援経験を持つ講師から、その特徴や学校生活、地域生活の支援のポイント、また、多職種や関係機関、学校との連携などについて、事例を通してお話しいただきます。

講座の詳細（会場とオンライン）

10. 【介護事業所の諸課題に立ち向かう】人口減少社会を生き抜くための組織づくり ～「南大阪モデル」に学ぶ、地域で共に創る仕掛け～

9月15日（火）9:30～11:00

講師：西之坊　篤 氏
一般社団法人 南大阪介護事業所連盟　副理事長

深刻化する人材不足に対し、人口減少社会という厳しい現実を受け止めた上で、競合を仲間に変え、地域全体で人材を育む新しい組織のあり方をどう構築していくのでしょうか。

本講座では、先進的な「南大阪モデル」を参考に、地域で人材を創り出す仕掛けについて学び、周囲を巻き込み組織化していくプロセスや、多文化・多世代の職員を孤立させない教育のあり方について、法人の枠を超えた真摯な実践事例を通してお話しいただきます。

※　会場では、講師が遠隔地からZoomで行う講義を上映する予定です。

11. アタッチメントに着目した自閉スペクトラム症児と養育者に対する親子関係支援

9月17日（木）9:30～11:30

講師：久保　信代 氏
関西福祉科学大学 心理科学部 心理科学科　教授

近年の発達支援において、「アタッチメント（愛着）」の重要性が再注目されています。子どもが困難に直面したとき、あるいは新しい世界を探索しようとするとき、養育者は、安心して戻れる存在であると同時に、その安心を土台に外の世界へ向かうことを支える存在として、どのように関わることができるのでしょうか。

本講座では、自閉スペクトラム症など発達特性のあるお子さんと養育者の関係に焦点を当て、アタッチメント理論を手がかりに理解を深めます。あわせて、親子関係支援プログラムとして世界的に活用されている「安心感の輪」子育てプログラムの視点も手がかりにしながら、子どもの行動の背景にある情緒的なニーズや関係の文脈に着目します。そのうえで、子どもの行動を関係の中で捉え直し、支援の見立てをどのように広げていくことができるかを検討します。

12. 精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～

10月8日（木）15:20～16:50

講師：波床　将材　氏
公益財団法人 豊郷病院　精神科医

精神障害は、治療の中断により再燃しやすいとされますが、適切な薬物療法を継続することによって症状のコントロールが可能となる場合が多く、薬と上手につきあっていくことが、安定した生活を送る上で重要です。

本講座では、主要な向精神薬の効果や副作用など、薬物療法の基本的な知識についてお話しいただきます。

講座の詳細（会場とオンライン）

13. 学校の中に「作業療法」の視点を ～学校作業療法室の活用と、子どもが輝く環境づくり～

10月9日（金）13:30～15:30

講師：塩津　裕康 氏
名古屋市立大学 医学部保健医療学科
リハビリテーション学専攻　講師　作業療法士

「読み書きが苦手」「じっとしていられない」「集団行動が難しい」教室の中で、そんな困り感を抱える子どもたちに対し、どんな取組みをされていますか？

本講座では、学校内に拠点を置く「学校作業療法室」を軸とした新しい支援の形を学びます。作業療法士が学校現場に入ることで、「子どものできる」をどう引き出し、教職員とどう連携していくのでしょうか。日本におけるCO-OPアプローチ（※）の第一人者である講師から、その秘訣を分かりやすくお話しいただきます。

※　CO-OPアプローチとは、作業遂行（朝起きる、着替え、朝食、歯磨き、登校、友達との会話、読書、文字を書く、パソコンを使う、ゲーム、虫取り、釣り等の日々の生活）の問題に対して、子ども自身で解決法を発見することで、スキルを身につけていくアプローチです。

14. 千葉リハの取組から学ぶ、高次脳機能障害のある方への就労支援の実際

10月14日（水）13:30～15:30

講師：森戸　崇行　氏
千葉県千葉リハビリテーションセンター　福祉局長
地域支援センター長　高次脳機能障害支援部長
就労支援部長

脳血管疾患や頭部外傷等により脳にダメージを受け、記憶障害や注意障害等の高次脳機能障害の後遺症が残った場合は、 就労や復職に結びつきにくく、社会生活にも困難を抱えるケースも多いため、社会復帰に際しては関係機関と連携した支援が必須です。

本講座では、労働・福祉・教育の場になじみにくく、生活のしづらさを抱える方々に対し、長年にわたり相談支援を行っている、千葉県千葉リハビリテーションセンター（千葉県高次脳機能障害者支援センター）の就労支援の取組について、事例を交えてお話しいただきます。

また、令和７年１０月から開始された、障害のある方が希望や適性、能力に合った就労支援サービスを主体的に選択できる「就労選択支援」についてもご紹介いただきます。

15. 発達に特性を抱える子の卒業後の就労に向けての支援とは

10月20日（火）9:30～11:30

講師：笹森　理絵　氏
精神保健福祉士　社会福祉士
神戸市発達障害ピアカウンセラー

昨今、発達障害のある方の雇用が社会的に注目されてきています。しかし一方で社会的なコミュニケーションに困難を示すことの多い自閉スペクトラム症等の特性を持つ方の中には、社会生活において、人間関係を中心とした困り感を抱えている方も多くいます。

本講座では、当事者・保護者・支援者というさまざまな視点をお持ちの講師がSSW（スクールソーシャルワーカー）の視点から学校における就労支援、子どもから大人への移行期の中での子どもたちの関わり方等エピソードを通してお話しいただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

16.　医療的ケア児の理解と支援の実際 ～明日から使える実践報告～

10月21日(水) 13:30～15:00

講師：鯉江　宏樹　氏
京都市東部医療的ケア児等地域支援コーディネート事業
「つながる」　コーディネーター

医療的ケア児支援法の施行や障害福祉サービス等報酬改定により、医療的ケア児に対する支援は以前より手厚くなっているものの、保護者の負担軽減や支援者の確保、地域での支え手の掘り起こし、多職種連携などの取組はまだ十分とはいえません。

本講座では、「東部医療的ケア児等地域支援コーディネート事業　つながる」のコーディネーターから、実際の活動などについて紹介していただくとともに、現状と課題、関係機関との連携について、具体的な事例を通してお話しいただきます。

17.　気分(感情)障害の理解と支援 ～こころの健康問題を正しく理解するために～

10月22日(木) 13:30 ～15:00

講師：齋藤　暢紀
京都市こころの健康増進センター 相談援助課
担当係長　精神科医

「気分障害」とは、うつ病や双極性障害（いわゆる躁うつ病）など、気分や感情に変化があるために生活に支障をきたしている精神疾患のことを指します。「うつ病」については、１５人に１人が一生のうちに一度はうつ病を経験すると言われており、一般的な疾患と言えます。一方、うつ状態とそう状態を繰り返す「双極性障害」も近年は啓発が進み、より軽症、早期での治療が増えていますが、激しいそう状態となると職場や支援機関、地域等で問題が生じることがあります。

本講座では、これらの気分障害に関する基礎知識や、気分障害をお持ちの方への関わり方などについてお話しいたします。

18. 学習障害(LD)のある子の支援について ～ICT活用と合理的配慮がつなぐ子どもの未来～

11月13日(金) 13:30～15:30

講師：菊田　史子 氏
一般社団法人 読み書き配慮　代表理事

読み書きに困難（LD／ディスレクシア等）を抱える子どもたちにとって、教室での「読む・書く」作業は、時に学習そのものを阻害する大きな壁となります。努力では解決できない課題に対し、私たちはどのような「代替手段」を提示できるでしょうか。

菊田氏が提唱される「KIKUTAメソッド」は、単にICTを導入するだけでなく、子どもが自らツールを選び、学びを自律させるための支援方法です。現場の支援者が知っておくべき最前線の知見を学び、実際に学習障害の子どもを持つ保護者としての実体験に基づいた「本人の困り感」への理解を深めるとともに、学校・社会で求められる「合理的配慮」のあり方についてもお話しいただきます。

講座の詳細(会場とオンライン)

19. 誰もが取り残されない地域づくり ～つまずきを繰り返さないために～

11月18日(水) 13:30～15:30

講師：小林　稔 氏
京都府地域生活定着支援センター　センター長

昨今、罪を犯してしまった障害のある方への支援（司法福祉）の重要性が高まっていますが、現場の支援者の中には「どのように関われればよいのか」という戸惑いや「自分たちだけで対応できるのか」といった不安から生じる心理的な壁を感じている人も多いのではないでしょうか。

本講座では、定着支援センターの役割や地域支援者との具体的な連携、行動の背景にある心理的要因や対象者の「生きづらさ」や「SOSのサイン」として捉え直すための心の持ち方、それに対する具体的なアプローチについて、事例を中心にお話しいただきます。

20. 障害福祉サービスと介護保険サービス ～両制度の移行や併用、多職種連携～

11月20日(金) 13:30～15:30

講師：中村　嘉男　氏
京都市東部障害者地域生活支援センター らくとう 副所長
講師：後藤　亮太　氏
オフィス Re・Cre ケアマネジャー

障害福祉サービスの利用者が、介護保険サービスに移行するとき、利用できるサービスの内容や量、サービス事業所、利用料金が異なる等により混乱が生じやすく様々な対応が必要になってきます。

本講座では、障害分野の相談支援専門員と介護保険分野のケアマネジャーの双方の立場から、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行や両サービスの併用、移行時の制度間の隙間への対応についてお話していただくとともに、加齢による身体機能や生活能力の変化への対応等、障害のある方のライフステージに応じた支援が切れ目なく行われるために、留意すべき支援者の視点や課題、よりよい支援を行うための多職種連携等について事例を通してお話しいただきます。

21. 世界がどう見えているのか？「心の理論」で知る自閉スペクトラム症の子どもの心

12月7日(月) 13:30～15:30

講師：別府　哲　氏
中部学院大学 教育学部 子ども教育学科　教授

自閉スペクトラム症のある子は人の心がうまく理解できないために、人とのコミュニケーションや、やりとりが難しいといわれることがあります。多くの支援者の方は自閉スペクトラム症児の心のサインが理解できずに悩んだ経験があるのではないでしょうか。

本講座では、自閉スペクトラム症児の感情や言動、行動などをその子独自の世界の見え方と捉え、コミュニケーション支援の概要とポイントを心の理論の視点を交えて、具体的な事例を通してお話しいただきます。

講座の詳細（会場のみ）

22. その抱え上げ、本当に必要ですか？ ～持ち上げない＋対象者の皮膚と身体を守る介助（ノーリフティングケア）の視点と実践～

7月23日（木）13:30～16:30

講師：神内　昭次　氏
社会福祉法人 京都福祉サービス協会
人材マネジメント室 人事部 人材研修センター 担当部長
理学療法士

障害や介護の現場では、移乗や移動の介助などにおいて職員の身体的負担が大きく、腰痛などの職業性傷害が課題となっています。また、無理な抱え上げによる介助は、利用者にとっても身体的・心理的負担が大きく、褥瘡や皮膚裂傷、筋緊張の亢進や関節拘縮、不良な姿勢からの誤嚥発生などへも繋がって行きます。

本講座では、「抱えない介助（ノーリフティング）」の考え方を学び、利用者の尊厳と安全を守りながら、職員の身体的負担を軽減する介助方法について理解を深め、現場で実践するための視点や工夫について、事例を交えながら学びます。

※　会場での受講のみの設定です。
※　動きやすい服装でお越しください。

23. 【実践】プロに学ぶ排泄ケア ～おむつの基本知識と「暮らしの質」を高める装着技術～

9月14日（月）14:00～16:00

講師：八木　大志　氏
おむつ宅配便　代表
おむつ情報局　管理者　理学療法士

根拠に基づいた適切なおむつの種類選択や、本人の自立を支える装着技術とは何なのでしょうか。「なんとなくの介護」から、心地よさと自立を両立させる排泄ケアへどう進むのでしょうか。

本講座では、おむつ専門家の視点から適切な製品選びと装着のポイントについて学び、座学と実技を交えて、現場の悩みを解消し支援の質を高める具体的な手法についてお話しいただきます。

※　会場での受講のみの設定です。
※　動きやすい服装でお越しください。

地域ガエル

「地域に帰る（地域リハビリテーションの推進）」をモットーにしている、地域リハビリテーション推進センターPRキャラクターです！

講座の詳細（会場のみ）

24.　暮らしを支える摂食･嚥下支援の実際 ～「食べる」喜びを繋ぐ評価と実技～

10月26日（月）10:00～12:00

講師：高田　耕平　氏
はなす たべる くらす舎　代表
言語聴覚士　食支援研究家

最期まで「食べる」喜びを支え続けるためには、機能低下を早期に捉える適切な評価と、日々の暮らしに即したケアの視点が欠かせません。 慣れ親しんだ食生活を守り続けるために、私たちは口腔機能の維持や、万が一の災害時にも途切れない支援の備えをどう進めていくのでしょうか。

本講座では、摂食・嚥下に関する基礎知識や機能評価の方法について実習を交えながら体系的に学び、 日々の生活支援から災害時における食の確保まで、多角的な視点で「食べる」を支え続けるためのポイントについて、 豊富な臨床経験に基づいた具体的な事例を通して、分かりやすくお話しいただきます。

※　会場での受講のみの設定です。

25.　医療的ケアの関係機関との連携や実際の支援 ～支援者同士のネットワーク構築～

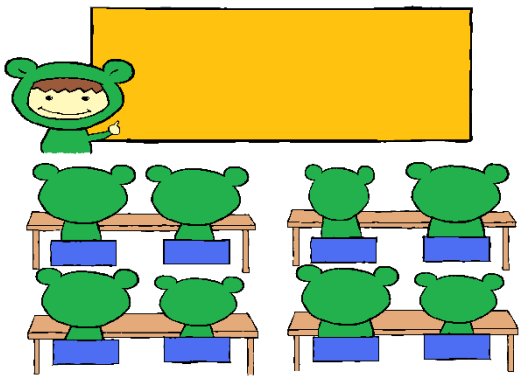
11月11日（水）13:30～15:30

講師：仲江　陽大　氏
京都医療センター 地域連携室　医療ソーシャルワーカー

医療的ケアを伴う生活は、本人・家族の想い、そして医療・福祉・教育といった多岐にわたる機関の視点が複雑に絡み合います。「制度の隙間で悩んでいる」、「多職種との連携がスムーズにいかない」などお悩みをお持ちではありませんか？

本講座では、医療ソーシャルワーカーである講師が体験した本人や家族、関係機関との連携事例を通して深く学びます。また、グループワークを通じて他者の視点に触れたり、新しい支援の切り口をみつけるとともに、支援者同士のネットワーク構築の足がかりとします。

※　会場での受講のみの設定です。



実習の詳細

＜会場型＞

講師は、当センターの理学療法士・作業療法士です。

1. 現場に活かす！ 機能維持体操「座位でできる集団体操編」

・7月16日(木)　10:00～11:30
・令和9年1月20日(水)　10:00～11:30

主に高齢者を対象にした集団体操について、より効果的かつ安全に実施する方法について学びます。

2. 現場に活かす！「介助用リフトの正しい使い方」

・7月21日(火)　9:30～12:00
・令和9年1月22日(金)　9:30～12:00

数種類のリフトやスリングシートの正しい使い方を、実技を通して学びます。
吊られる体験もできるので、利用者の気持ちも感じられます。　**※当センターADL室で実施**

3. 現場で役立つ！ 介助法「ベッド上移動・起き上がり編」

・7月28日(火)　9:30～11:30
・令和9年1月27日(水)　9:30～11:30

ベッド周囲の動作（臥位での上方移動や側方移動、寝返り、起き上がりなど）の動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたよりよい介助方法について学びます。

4. 現場で役立つ！ 介助法「移乗編」

・令和9年1月29日(金)　9:30～11:30

立ち上がりや方向転換など、移乗に関連する動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたさまざまな種類の移乗方法などについて学びます。

※ 令和８年度の前半には実施しませんので、ご希望の場合は、この実習の他に７月２３日（木）開催の講座２２（講師：神内 昭次 氏）の受講をお勧めします。

＜出講型＞

内容は、＜会場型＞1～4と同じです。 会場と以下の物品を準備してください。

※受付期間は、令和8年２月末までです。
実習１～４共通：椅子人数分（講義時に使用）
実習２：リフトが用意できない場合は、当センターで実施可能。
実習３：ベッド１台（ベッドがない場合は、床にマットで代用可能）
実習４：ベッド１台、車椅子２台
（ベッドと車椅子がない場合は、椅子４～６脚（肘掛なし）で代用可能）

※　日程や会場の広さ、準備物、定員等については、お気軽にご相談ください。

令和8年度 京都市地域リハビリテーション推進研修 実施要領

1 目 的

本研修は、リハビリテーションに関連する知識及び介護技術等の向上を目的とした研修を行うことにより、本市における地域リハビリテーションの推進及び充実を図るとともに、福祉・介護サービス等の質の向上に資することを目的とします。

2 受講対象者

次のいずれかに該当している方で、原則当事者、家族は対象外です。

（1）次に定める事業に従事する市内事業所の職員

ア 障害者総合支援法による障害福祉サービス等及び相談支援

イ 児童福祉法による障害児入所支援及び障害児通所支援

ウ 介護保険法による居宅サービス事業所、地域密着型サービス事業所、居宅介護支援事業所、介護予防サービス事業所、地域密着型介護予防サービス事業所、介護保険施設、介護予防・日常生活支援総合事業の第一号事業に係る指定事業所及び地域包括支援センター

（2）市内の総合支援学校及び育成学級等に勤務している教職員

（3）障害者の支援に関する業務に従事している本市職員

（4）障害者の支援等を行っている市内団体等に所属する方

（5）障害者雇用を進める企業に所属する方等

（6）その他、研修内容に応じて、市長が認める方

京都市地域リハ推進研修 検索

（センターホームページ）

3 日程及び内容

プログラムを御参照ください。

（当センターのホームページでも御確認いただけます。）

4 受講形態

講座：会場での受講、又は、オンラインでの受講（注：会場のみの講座があります。）

実習：会場型（当センターで実施）、又は、出講型（受講者側が準備した会場で実施）

※ 出講型「リフトの実習」は、リフトが用意できない場合、当センターで実施可能

5 会場及び定員

プログラムを御参照ください。

6 受講料：無 料

（出講型の実習で、会場に関わる費用が発生する場合は、受講者側で御負担ください。）

7 申込方法

以下の各申込フォームからお申込みください。

＊ 申込完了と同時に申込受理のメールが自動返信されます。
メールが届かない場合は、申込が完了していないので必ずお問い合わせください。

＊ 1つの端末で複数名が講座をオンライン受講される場合でも、1名ずつ申込みが必要です。

＊ 定員に達している等の場合は、別途御連絡いたします。

講座（7月～9月開催分）申込フォーム　申込期間：令和8年6月1日～9月15日
https://kyotocity.form.kintoneapp.com/public/3192d6985b4540bb66dbbc2714aaa0ee55697d0a549f9acf7f367aabd33c8888

講座（10月～12月開催分）申込フォーム 申込期間：令和8年9月1日～12月3日
https://kyotocity.form.kintoneapp.com/public/c1f5c80018691bbcb6568929fb866eb525c0f0ace4d2d556266a7d10f258f80b

実習申込フォーム　会場型実習申込期間：令和8年6月1日～令和9年1月27日
出講型実習申込期間：令和8年6月1日～令和9年2月26日
https://kyotocity.form.kintoneapp.com/public/a7086cb53ef892cfcaa90903283e7af533a7a5068367291b413b553b2a47142a

講座
（7 月～9月）
申込フォーム

講座
（10 月～12 月）
申込フォーム

実習
（会場型、出講型）
申込フォーム

8 申込締切：各開催日の2開庁日前（ただし、先着順で定員に達し次第、締め切ります。）
出講型の実習は、希望される日の１か月前までにお申込みください。

締切後も、受講枠に空きがある場合は申込みを受け付けますので、お問い合わせください。

9 留意事項

（1）やむを得ず欠席される場合は、受講形態に限らず必ず事前に御連絡ください。

（2）会場で講座を受講される方のうち、聴覚障害により**手話通訳等**が必要な方は、各講座の**2週間前まで**に御連絡ください。

（3）会場へは、公共交通機関を御利用ください。特別な理由があり、車での来場が必要な場合は、事前に御相談ください。

（4）各研修開始3時間前の時点で、京都市に「暴風警報」又は「特別警報」が発令されている場合は、会場開催、オンライン開催ともに中止します。各自で御確認ください。

（5）講座をオンラインで受講される場合は、インターネット接続が可能なパソコン等の端末、回線、及び、Zoom アプリケーションを御準備ください。（通信料は受講者負担）

＊ 申込フォームに記載いただくアドレスは、キャリアメールを避け、Gmail や Yahoo メール、お勤め先のメールアドレス等を記載してください。

＊ 開催 2 日前を目途に、Zoom 視聴用 ID、Pass、講義資料等を、申込フォームに記載いただいたアドレスに送信します。

＊ セキュリティリスクを防ぐため、フリー Wi-Fi での接続は避けてください。

＊ インターネットへの接続環境や技術的な障害により、研修中に接続が切れる可能性があります。

＊ 当日、個別の操作説明や接続トラブルへの対応はできませんので、御了承ください。

（6）その他、受講に際しての注意事項

以下に該当する事項は、固くお断りいたします。

・講義の録画、録音、撮影　・資料の二次利用　・講義の詳細内容の SNS 等への投稿

・Zoom の ID 及びパスワードの無断共有（オンライン受講の場合）

該当する行為が発見された場合は、御退場いただきます。また、講義内容の盗用が発覚次第、講師の著作権・肖像権侵害として厳重に対処します。

10 当センターへのアクセス、問合せ先

市バス	西大路松原、市立病院前 バス停から徒歩5分
阪急電鉄	西院駅から徒歩10分
京福電鉄	西院駅から徒歩10分
JR	丹波口駅から徒歩15分

発行・問合せ先	〒604-8845　京都市中京区壬生東高田町1番地の20　COCO・てらす1階 京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課 TEL 075-925-7800　FAX 075-925-5920 E-Mail rehabili-chiiki@city.kyoto.lg.jp （受付時間：土、日、祝日を除く午前8：30 ～ 午後5：00） 令和8年5月発行　京都市印刷物　第　080925 号